

ER部門とER型救急医療

慶應義塾大学医学部救急医学

堀 進悟

日本救急医学会ワークショップ
救急医療におけるER部門、および救急科専門医のあり方について
2010年2月22日(月) 東京









ER型救急医療とは？

- 重症度、罹患臓器、年齢に関わらず救急医がFirst Doctorとして救急患者を診療する医療モデル
 - ER検討特別委員会
- 都市部でER型の需要が大きい
 - 住民の救急医療に対する期待が高い
 - 各科医師による診療の限界
 - 新研修医体制

院内部署による分業化：相補性

救命型

病棟



ER



ER型

救急科専門医の医師像

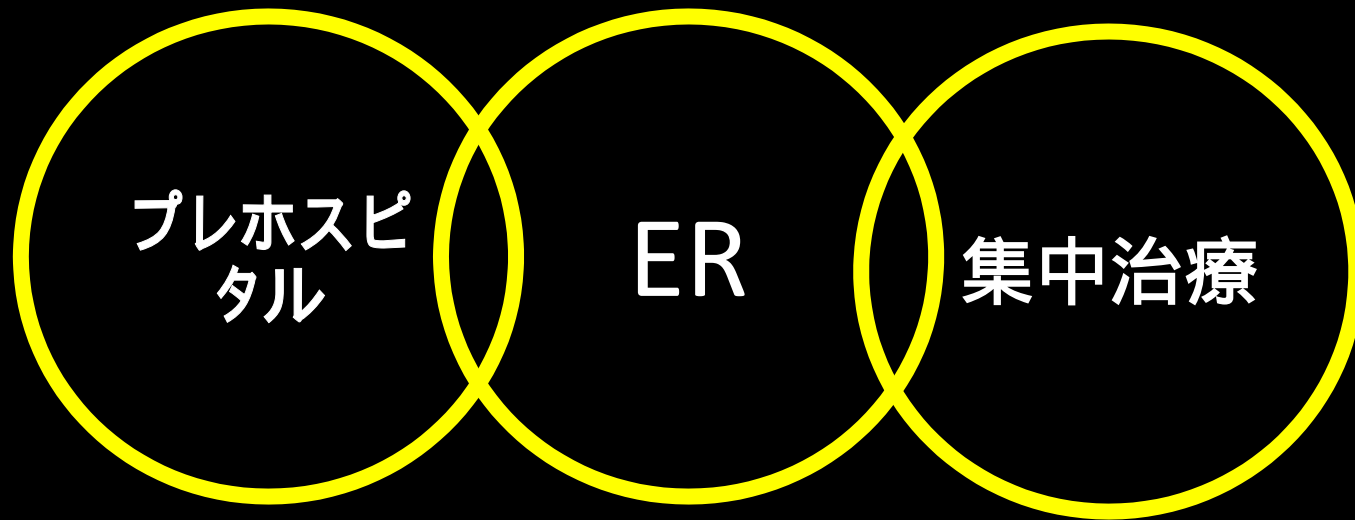
- 救急科専門医は、病気、けが、やけどや中毒などによる急病の方を診療科に関係なく診療し、特に重症な場合に救命救急処置、集中治療を行うことを専門とします。
- 病気やけがの種類、治療の経過に応じて、適切な診療科と連携して診療に当たります。
- さらに、救急医療の知識と技能を生かし、救急医療制度、メディカルコントロール体制や災害医療に指導的立場を発揮します。

日本救急医学会2007年7月

救急医療のリモデリング

- 北米型
 - 軽症から重症まで
 - 救急医はER診療に特化
 - 救急医4万人、救急看護師9万人
 - Flight Medicine の導入
- 欧州型
 - 重症患者のプレホスピタルケア
 - ER、入院は各科対応
 - 北米型の導入
- 日本型
 - ER、入院ともに各科対応
 - 救命センター型
 - ER型の導入

救急医が主導すべき分野 (日本救急医学会)

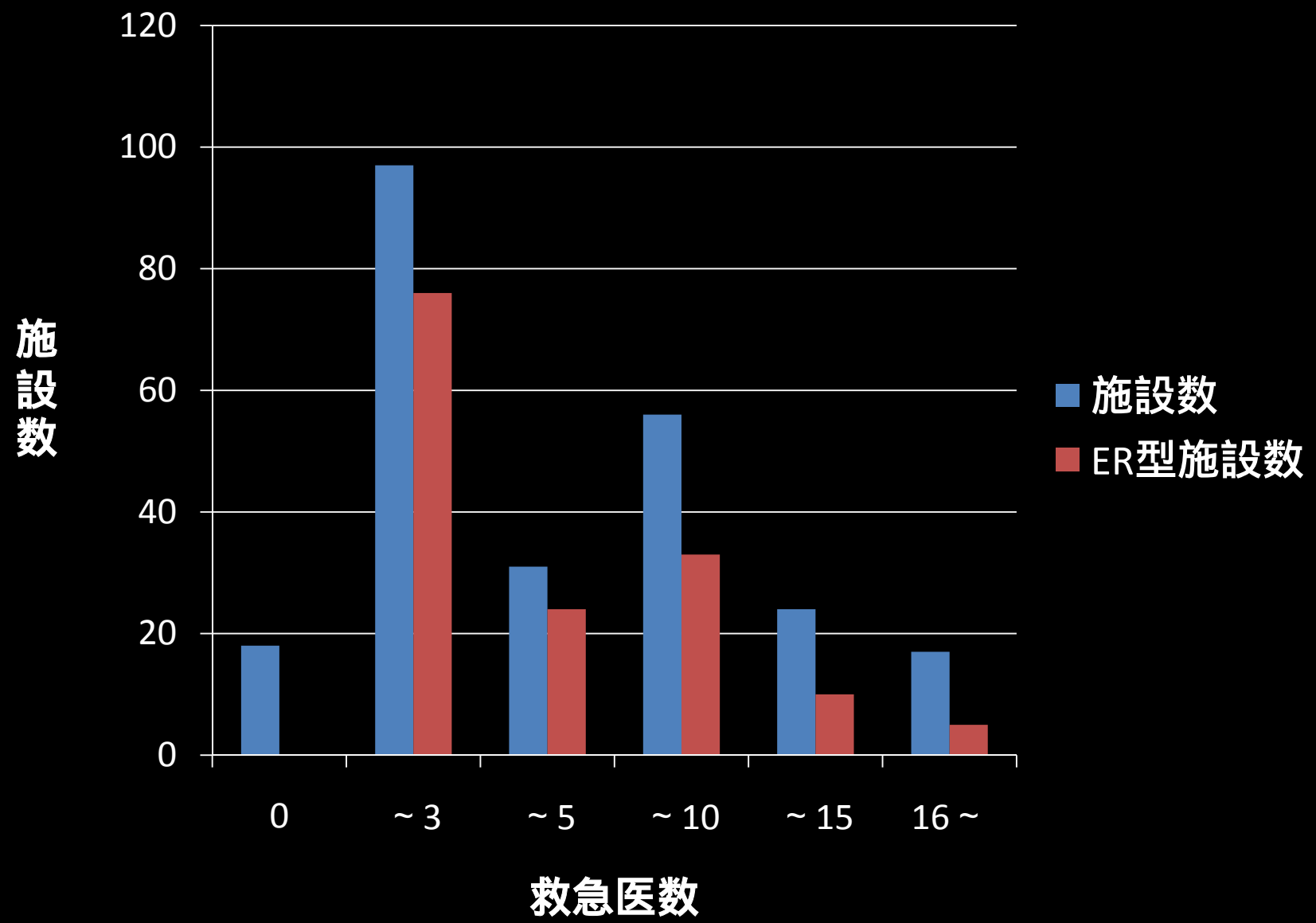


ER型救急医療の実施状況

(山下:日本救急医学会雑誌2008年)

- 回答283施設中150施設で実施
 - 24時間体制・82施設
 - 139施設で初期臨床研修に活用
- 救急医の最頻値は1-3人
 - Double Peak (1-3人、6-10人)
- ER型救急医は400人以上
- 後期研修医は100人以上
- ER型後期研修医プログラムは68

ER型施設と救急医数



ER型救急医療と日本救急医学会 認定制度との整合性

- 専門医受験資格
 - ER型救急医の後期研修プログラム
 - 4年: ER2年、ER以外 (ICUを含む) 2年
- 指導医申請資格
 - ER型救急医に取得困難な事項 (侵襲的処置)
 - ER型救急医のキャリアが評価されていない
- 指導医指定施設
 - ER型救急医療の実施施設に取得困難な事項
 - 病院全体の救急機能が評価されていない

専門医受験資格との整合性

- 事前登録制の採用
 - ER型救急医養成プログラムに所属する後期研修医については、他科ローテーション期間の5割を救急勤務歴として認める。
- 申請に必要な実績表のうち、A-b(経験が望ましい手技)の各項目について妥当性の再検討を要望する

指導医申請資格との整合性

- 指導医申請資格に、ER診療に必要な広範な疾患群の診療経験を配点
 - ER型救急医療に従事する指導的医師が指導医になれるように配慮が必要
 - 手術経験はオプションで良いのでは？
- 施設に指導医がいなくとも、その施設での救急専従歴が5年以上ある救命救急センターの長または活動性の高い救急部門の実務の長には、指導医の申請を認める

指導医指定施設との整合性

- ER型救急医療を行う施設では、指導医指定施設の評価基準に、ER機能の評価、すなわちER受診患者総数、救急搬送受入件数、ER経由で他診療科に入院した患者数、ER専従医師の有無を用いる。

将来構想：大規模病院にERを配備

- 救命救急センター
 - 2008年現在・209施設
- 日本救急医学会専門医指定施設
 - 同・419施設
- 主要な臨床研修指定病院
 - 2306施設中の1000施設程度

救急医学の位置づけ

